



■日時：平成29年5月14日（日）

■会場：明治東洋医学院専門学校

『鍼灸師だからこそできる治療としての美容鍼灸

～美顔鍼・痩身鍼灸くびれ鍼～』

講師：（一社）日本健美瘦総合メディカル鍼灸協会

理事長 須賀 清子 先生

まだ5月だというのに夏の日差しを思わせるような暑さの中、明治東洋医学院の講堂がほぼ満席となる205名の参加があり、改めて美容鍼灸の注目度の高さを感じる中で講習会が始まりました。

今回は2コマ（90分×2）たっぷり使って、美容鍼灸の現状と今後の展望そして、MEDICURE式美顔鍼灸・痩身鍼灸くびれ鍼の基礎施術を演じて頂きました。

①美容鍼灸の現状と未来

最近では、有名芸能人がInstagramなどのSNSで美容鍼灸を施術されている写真を投稿して話題になり、たちまち世間では美容鍼灸が流行り、美容鍼灸を取り入れる鍼灸院も増えていきました。しかし現実には患者さんとのトラブルも多発しており、ただの流行で終わるのか、それとも美容鍼灸として確立していくかの重要な局面を向かえています。確立していくためには、美容鍼灸の在り方を明確にしなければいけません。単にエステとしての鍼灸をするのではなく、治療としての美容鍼灸を実践しなければいけません。

「治す」という鍼灸師だからこそできることが必要です。

②広がる鍼灸の可能性

鍼灸＝「肩こり・腰痛」のみに効くと認識されていることが多い世の中で、本来もっている鍼灸の可能性を知ってもらわなければいけません。女性でいえば、不妊や月経異常に対する鍼灸治療があり、男性に特化すると、EDや脱毛そして痩身鍼灸（健康的に痩せる）があります。またスポーツ鍼灸（選手の怪我・サポート治療）もあり、どんどん鍼灸の可能性を広げていき、鍼灸が選ばれる選択肢を増やしていくことが大切です。鍼灸の得意性・特別性を示す必要があります。その時に重要な3つのポイントは、1. 絶対的効果の出し方 2. リスクマネジメント 3. 患者さんとの信頼関係になります。そして、痛くない！気持ちがいい鍼灸を実践することです。

③リスクマネジメント

美容鍼灸において、患者さんとトラブルになる原因に内出血があります。施術部位の多くが顔面部になるため、徹底したリスク管理が必要になってきます。内出血を起こしやすい部位（目の周囲）は刺鍼を避け、問診時のカウンセリングシート（施術同意書付）に沿って、美容鍼灸のデメリットとメリットをきちんと説明してから施術に入るようにします。内出血に関しても、なぜ内出血が起こるのか・いつ頃治るのかなどを丁寧に説明するよう心がけます。

④美顔鍼灸（MEDICURE式美顔鍼灸）

メディカルの医療観点からの治療です。すなわち「しみ」「しわ」「くすみ」といった数多ある肌トラブルを一つの疾患として捉え、それらを治療することで、元ある美肌・美顔へと導き、さらに肌の状態を向上させることが治療目的です。

解剖学的には、肌は三層構造になっており、表面から表皮・真皮・皮下組織の順になっています。この中で美顔鍼灸に関係してくるのが、表皮と真皮です。表皮では肌のターンオーバー（肌の新陳代謝）が周期的（年齢×1.5）に行われており、治療によって血流の改善がみられ、ターンオーバーの乱れを整えていきます。

⑤痩身鍼灸・くびれ鍼灸

皮下組織に刺激することによって、脂肪組織に直接アプローチ（脂肪層を傷つける）をし、血流を促進して代謝を上げていきます。鍼灸だけで痩せるのではなく、代謝を上げるスイッチをONにした状態でマッサージや簡単なストレッチを加えることで、脂肪を消費しやすくするのです。

⑥実技（美顔鍼灸）

受講人数が多かったため、美顔鍼灸は被験者2名を対象に2回の公開実技を実施致しました。痩身鍼灸は男性1名に対して、1回の実技を実施致しました。

⑦まとめ

聴講数からも美容鍼灸の関心度が高いことを非常に感じました。新しく発展的な美容鍼灸分野であり、解剖学・生理学のみでなく、どう鍼灸が作用するのか原理的・応用的アプローチが必要であり、今回はその原理を学びました。また患者様への様々な対応が必要となり、しっかり学ばなければ、美容鍼灸の更なるトラブルになりうるとの学びもありました。単にエステとしての美容鍼灸ではなく、根本治療を取り入れた「治療としての美容鍼灸」を実践することが大切です。そのためには、治療技術はもちろんですが、徹底したリスク管理と患者さん目線の対応（信頼関係の構築）が重要になっていて、こういった土台があつてこそ治療が成立するのではないかと思います。ここが鍼灸師にとって必要な部分であると同時に実践していくことによって今後「治療としての美容鍼灸」の確立につながり、また鍼灸受療率の向上に結び付いていくのではないのでしょうか。

（研修委員 荒木 善行）